

江田五月法務大臣に訴える

政治（家）と死刑

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

死刑制度に疑問を持ち、死刑執行を控えた法務大臣は少なくありません。戦後の日本でもっとも長い3年4ヶ月の死刑執行停止期間（1989.11～1993.3）には、自民党政権（海部→宮沢内閣）下で、4人の大臣が執行を回避しました。

このまま死刑が廃止されるのではないかとさえ思われていた中で、1993年3月26日、宮沢改造内閣の後藤田正晴法務大臣の命により、3人の死刑が執行されました。以降、日本では、執行がなかった年はありません。

2010年には、初の民主党政権下で、もともと死刑には反対であったはずの千葉景子法務大臣により死刑執行が行なわれてしまいました。

☆☆☆

歴代で、最も死刑の執行を乱発したのは福田康夫内閣での鳩山邦夫法相です。1年程度の任期中に、4回、13名もの執行を行いました。それを「死神」と呼んだ新聞が、本人に激怒され、謝罪するようなこともありました。最近になって鳩山氏は、本当は何十人も執行しておきたいところだった……とTVのインタビューに答えています。その発言は「死神」に開き直ったかのようなようでした。

☆☆☆

死刑制度に反対の見解を持っている政治家も少なくありません。しかし、それを表明することには躊躇する方が多いようです。世論の多数が「死刑制度があるのもやむをえない」と答えているとき、政治家として、それに抗う意見は確かに言いづらいことでしょう。小選挙区で2大政党がしのぎを削る制度では、ましてその傾向が露骨になります。

地方議会の議員の方には、大胆に死刑廃止を訴える方もいます。「選挙は大丈夫ですか？」と心配をしたら、むしろ、確実な少数派を味方にした方が上位当選できるんです、ということでした。そんな人でも、仮に首長選挙に出るとなれば、最大公約数的なことをスローガンに掲げざるをえないようです。

☆☆☆

死刑制度の是非が問われても難しいかもしれません。しかし、死刑をどんどん使っていこうとする政治（家）と、なるだけ抑制していこうとする政治（家）の、どちらをあなたは選びたいでしょうか。

江田五月法務大臣は、2月、地元岡山で、死刑廃止を求める市民団体との面談に応じました。執行の可能性について明言はしませんでした。後者の立場に立った政治家であることを信じたいと思います。